

警察庁によると、2016年の刑法犯の認知件数は、全都道府県で前年より減少し99万6204件でした。ピークの2002年の285万件から14年連続で減少し戦後最少となり、初めて100万件を下回りました。

刑法犯14年連続減少

罪種別で見ると、刑法犯の7割を占める窃盗犯は72万3189件で、前年より10・4%減少し、中でもオートバイ盗や自動車盗、自転車盗の減少が目立ちました。凶悪

犯は、5131件で、前年より8・7%減少し、殺人のほか放火、強姦もそれぞれ減少しました。

一方、増加した罪種では、ドメスティック・バイオレンス（DV）や児童虐待など親族間の暴行事件、略取誘拐や偽造カード事件などがあります。

刑法犯が減少した要因として、地域の防犯ボランティア活動の取り組みが挙げられています。

防犯一口メモ